

第5節 調査研究の推進

①環境技術の振興

■試験研究体制の整備

公害監視センターにおいて、検査・分析の精度の維持向上を図るため、機器の導入、更新を行うとともに、新たな化学物質のモニタリング体制の充実を図った。

農林技術センターでは、循環型社会づくりに役立つ、食品廃棄物の再資源化など、食のゼロ・エミッション技術の研究開発を一層推進するため、食のゼロ・エミッション研究開発調査委員会を設置した。

■研究開発の推進

公害監視センターにおいて、排水性舗装による道路騒音の低減に関する調査及び化学物質、農業に関する調査研究を行った。

農林技術センターでは、森林の適正な管理の推進及び炭素固定機能の評価を行うため、地理情報システム（GIS）による森林資源情報データベースの構築を進めるとともに、森林の台風被害要因解析を行った。また、森林資源モニタリング現地調査を実施した。

産業技術総合研究所において、六価クロムを用いない代替めっき技術の開発とともに、バーナーの燃焼効率を高めNOx排出量を低減する低NOx化技術の研究を進め、また、各種床材のVOC（揮発性有機化合物）の吸着性能に関する検討、さらには、環境汚染の防止、廃棄物のリサイクル、浄化技術といった分野の研究を推進した。

府立大学において、総合的・学際的視野から有害排出物の低減を目指した燃焼技術、ゴルフ場農薬の微生物分解、光合成生物による大気炭酸ガスの低減化等、幅広く環境に関する研究を行った。

■成果の普及・移転

産業技術総合研究所において、ゼオライトによる排ガス吸着技術や高効率炭素発熱体を用いた省エネ材料などについて、中小企業等に対して普及・技術移転を行い、環境産業技術の発展に努めた。

②調査研究の推進（中長期的な研究課題例）

■環境の保全と創造に関する実証研究

産業廃棄物の最終処分場（堺第7-3区）において、土質改良方策を土地利用形態別に調査し、長期的な視点に立脚した土壌浄化技術の可能性について検討した。

■大阪湾の環境管理に関する総合的研究

公害監視センターにおいて、大阪湾の富栄養化や重金属汚染に関する調査等を行った。

府立大学において、大阪湾沿岸域における環境管理システムの構築に関する研究等を行った。

■環境と調和した経済社会システムに関する研究

農林技術センター、水産試験場や淡水魚試験場において、農林水産業に関する総合的試験研究を行い、生産性向上及び経営の近代化促進に努めるとともに、自然環境との関わりについての府民の関心の高まりを受け、環境保全型農業生産技術や、自然環境の保全と緑創出技術、水域環境の向上を図るための水産資源生存環境及び生態等に関する調査研究等を実施した。

産業技術総合研究所において、中小企業に適した環境マネジメントシステム構築手法の開発を図った。
府立大学において、ゼロエミッションを目指した物質循環プロセスの構築に関する研究や、農業・農村の環境評価及び環境創造に関する研究等を行った。

■地球環境保全に関する調査研究

公害監視センター、農林技術センター及び府立大学において、酸性雨及び酸性霧に関する研究等を行った。

公害監視センターにおいて、温室効果気体等モニタリング調査や、大理石・コンクリート構造物に対する酸性雨と乾性吸着の影響調査等を行った。

府立大学において、ユーグレナグラシリウス（光合成能を持つ藻類）の培養による炭酸ガス固定化や、都市緑化と市街地の熱環境に関する研究等を行った。

府立産業デザイン研究センターにおいて、生活者の日常生活が環境にもたらす影響に注目し、地球環境問題と暮らしに関する意識調査を行うとともに、サステイナブルデザイン、エコデザインに基づく製品開発コンセプトをまとめ、ホームページ等からの情報発信を行った。